

福井の 幸せみつけよう 取材の旅

まちと人のいいところ
歩いて聞いて、再発見。

福井市内の学校に通う中高生が「1日記者」となり、市内の企業や名所、食文化などの取材を通して、まちと人の魅力や価値を探る「福井の幸せみつけよう取材の旅」が11月3日に行われた。同市が主宰する「未来につなぐふくい魅える化プロジェクト」の一環として、若い世代に自分が住む地域のこ

とを知り愛着を持ってもらおうと企画。23人の生徒が5チームに分かれ、松浦機械製作所や一乗谷朝倉氏遺跡を取材したほか、伝承料理を受け継ぐ女性グループによるワークショップに参加。自分たちが感じた福井のいいところを記事やキャッチコピーにまとめ、オリジナルの新聞に仕上げた。

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト

暮らしや仕事を軸に福井市の魅力や価値を外からの目を通じて掘り起こし、都市圏に向け分かりやすく可視化（見える化）して発信するプロジェクト。

【主な事業】

1. XSCHOOL（事業創造プログラム）
2. 東西学生対抗アイデアソン・メークファイト!!!（学生ベンチャープログラム）
3. 次代の“あたりまえ”な働き方研究所（企業アンバサダーによる採用力強化）

4 幸せの秘密を探る取材の旅 （福井の魅力再発見プログラム）

さあ、取材だ。

私たち中高生記者は午前中、2コースに分かれて取材しました。2チームが一乗谷朝倉氏遺跡を訪れ、遺跡保存協会長の岸田清さんの案内で周辺を散策しながら、戦国大名・越前朝倉氏の歴史や地域文化について話を聞きました。

岸田さんは、この遺跡が国の特別史跡、特別名勝、重要文化財の3重指定を受けていることや、発掘されたそのまの石垣や基礎石を生かして現在の屋敷や町並みが忠実に復原されていることなどを解説してくれました。「朝倉氏17力条」が現代の社会でも役立つことなども教わり、どんな話に引き込まれました。「こんな素晴らしい場所は全国探しても福井にしかない。この石は400年以上前の戦国時代の人たちも触れていたんだよ」という言葉からは熱い思いが伝わってきました。

松浦機械製作所には3チームが訪問。取締役管理本部長の高橋英郎さんと工場内を回り、金属を切削する加工技術が1ミリの千分の1単位の精度を誇ることや、世界最先端の金属3Dプリンター技術を持つことなどを取材しました。高橋さんは、東京の大手銀行勤務を経て15年前にリターンした経験から「若い皆さんは行動力を大事に、広い世間を見てほしい。そして福井にも、世界を相手に堂々と挑戦する会社がいっぱいあることを覚えておいて」とエールを送ってくれました。高橋さんの言葉からは仕事への誇りを感じ、「福井の幸せ」をまた一つ発見した瞬間でした。

歴史、郷土食、企業の技・・・福井市に息づく世界基準。



午前中は、2コースに分かれ、それぞれ一乗谷朝倉氏遺跡（福井市城戸ノ内町）と松浦機械製作所（同市漆原町）を取材。
午後は、福井市中央1丁目のコワーキングスペース「sankaku（サンカク）」で、伝承料理体験のワークショップに参加した後、チームごとに新聞作りに挑戦した。

新聞を作るぞ！

コーディネーターや福井新聞社員の皆さんの指導のもと、最後はチームごとに取材で見つけた福井のまちと人の魅力や価値を共有しながら、オリジナルの新聞作りに挑戦しました。

きょう1日、さまざまなものを目にし、多くの人に出会って話を聞いた中で、面白いと思ったこと、驚いたこと、感動したポイントなど福井の魅力や価値を深掘りしていきました。それらを新聞に仕上げる作業では、チーム内で役割分担しマジックやハサミ、色紙などを使って、思い思いのキャッチコピーや写真イラストを準備。「あの話題も入れようよ」「この言葉のほうがぴったりじゃない？」などみんなで話し合い、意見をまとめていきました。

感動伝えたい。

各チームからは「一乗谷が全国に誇れる価値の高い遺跡だなんて知らなかった」「福井市にはたくさん世界レベルの先端技術を持つ企業があったんだ」「郷土食って、わたしたちが住んでいる土地や文化とつながっているんだね」など、さまざまな驚きや感動の声が出ていました。それらを工夫しながら新聞に表現しました。

「1日記者」を体験して、「福井ってすごい」「世界でも十分通用する」と見直すことができました。自分たちが暮らし通学する福井市は、都会やほかの地域に負けていません。この素晴らしいさを友達だけでなく、県外の人たちにも発信していきたいです。

みんなに教えた。福井ってすごい！ 感動、驚き 新聞に凝縮!!

取材で発見した福井の魅力を、限られた時間の中、キャッチコピーや文章で思い思いに表現しました。
来年2月下旬発行予定の「福井でかなえるDream」で詳報します。



左から、小原真望（高志中2）、岡渚（高志中1）、川谷優佳（仁愛女子高2）、高桑千加子（高志中2）、間田有優花（仁愛女子高2）の皆さん



「マジパネェ! ふくい」

「風土に根付いた郷土料理の特徴とおいしさ。一乗谷の岸田さんの話への驚きを、素直にタイトルにしました」



「過去と未来をつなぐ輝け! ふくいびと」

「人をメインテーマに、伝統の味を守るおばちゃんたちと、最先端技術で世界を相手にする企業の人を紹介しています」



左から、上坂嘉崇（高志中1）、竹内陽香（高志中2）、谷口咲優（明倫中1）、松浦直輝（明倫中1）の皆さん



「福井って素晴らしい!!」

「遺跡も食も、そこに行ってみて、食べてみないと分からないので、自分で体験したくなるように工夫しました」



左から、関ひかり（仁愛女子高2）、巻田恵理奈（仁愛女子高2）、内田大希（明倫中1）、岩佐稔（藤島中2）、大久保玲佑（明倫中1）の皆さん



「Fukuingu」

「福井のすごさは、今まさに頑張っている人たちがいることによって続いているという意味を込めたタイトルです」



左から、菅原あす香（明倫中1）、長谷部心愛（高志中1）、久保田大貴（明倫中1）、木村優花（福井大附属中1）の皆さん



「みんなで見つけた 福井のしあわせ」

「先端技術が詰まった工場の様子や、おいしい郷土料理を目で見て楽しめるように写真をたくさん使いました」



左から、奥島由樹子（高志中1）、前田陸人（高志中2）、宮脇温大（明倫中1）、山口俊也（高志高1）の皆さん